

無償資金協力 「カリブにおけるサルガッサム管理能力強化計画（UNDP 連携）」

セントクリストファー・ネービス、セントビンセント及びグレナディーン諸島、
セントルシア、トリニダード・トバゴ共和国並びにバルバドスに対する
水産業及び観光業の発展のための支援



2月18日、バルバドスの首都ブリッジタウンにおいて、品田光彦駐バルバドス日本大使とヴァレリー・クリフ国連開発計画（UNDP）バルバドス及び東カリブ地域事務所代表（Ms. Valerie CLIFF, Resident Representative of UNDP to Barbados and the Eastern Caribbean）との間で、供与額14.19億円の無償資金協力「カリブにおけるサルガッサム管理能力強化計画（UNDP連携）」に関する書簡の交換が行われました。

この協力は、セントクリストファー・ネービス、セントビンセント及びグレナディーン諸島、セントルシア、トリニダード・トバゴ共和国並びにバルバドスの5か国を対象として、サルガッサム海藻除去機材の供与、海藻の流入のモニタリングや

除去のための能力強化、関係国間の情報共有ネットワークの構築を行うものです。この協力により、同海藻除去に対する地域レベルでの対応能力の向上を図り、対象国における経済・社会開発の促進に寄与することが期待されます。

近年カリブ地域一帯では、サルガッサム海藻の大量来遊が深刻な問題となっており、海藻が海岸を埋め尽くすことによる景観の悪化や悪臭のみならず、硫化水素の発生、海中の酸素濃度の減少など海洋生態系に対しても大きな脅威となり、水産業や観光業にとって深刻な影響を与えています。我が国は、「日本の対カリコム政策」の第一の柱として「小島嶼国特有の脆弱性克服を含む持続的な発展に向けた協力」を掲げており、その方針のもとで実施されるこの無償資金協力は、対象国の水産業及び観光業を支援するとともに、気候変動に関する我が国の取組としても位置づけられるものです。

品田大使は、署名式のスピーチにおいて、日本が資金を提供し、UNDPがサルガッサムの収集、除去、輸送、廃棄に必要な機材調達と専門知識、技術の移転を実施することにより、サルガッサムによって引き起こされる課題に対象国が取り組む努力を支援すると説明し、さらにこのような包括的なアプローチにより、対象国における海洋環境保全管理の能力が強化され、COVID-19後の経済回復に関しても大きく貢献し得ると強調しました。



UNDP によるプレスリリースは以下のとおりです。

<https://www.bb.undp.org/content/barbados/en/home/presscenter/pressreleases/2022/japan-and-undp-support-caribbean-search-for-a-sargassum-seaweed.html>

バルバドスにおける報道発表は、以下のとおりです。

● Caribbean Broadcasting Cooperation (CBC : テレビ局)

<https://www.cbc.bb/cbctest/news/local-news/japan-helping-to-find-solutions-to-sargassum-seaweed-challenge/>

● Barbados Government Information Service (GIS : バルバドス政府広報)

<https://gisbarbados.gov.bb/blog/barbados-benefits-from-us2-million-for-sargassum-fight/>

● Barbados today (オンライン日刊紙)

<https://barbadostoday.bb/2022/02/19/caribbean-seaweed-project-gets-boost-from-japan/>

● 日刊紙 Advocate

● 日刊紙 Nation

